



▲博労町交差点付近 (左:昭和29年、右:現在)



当時の豪商の姿を今日に伝える歴史的な建物である旧篠原家住宅には、貴重な資料とともに、博労町の懐かしい思い出も伝えられています。

JR宇都宮駅西口
記されたこともある
博労町は奥州街道に
面し、馬車や旅人の
往来が盛んで、質屋
やしやうゆ屋、雑貨
屋などが建ち並んで
いました。

また、現在の博労町交差点辺りには、ロータリーと花壇があり、子どもたちはその花壇の手入れをしたり、荷馬車を押す手伝いをしたりなど、交通の要衝として活気あふれる生活が営まれていました。

「博労町」という町名は、馬の病気を治す腕の良い医師が住んでいたことから伯楽町といい、後に博労町と呼ばれるようになったといわれています。

から数分歩くと、旧篠原家住宅があります。博労町は宇都宮で一番小さな町でした。



古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します



錦地区まちづくり協議会

副会長 小寺威夫さんと (右)
矢部恵生さん (左)